

<サロン 9 条> 第 358 回例会 (2022.7.26)

テーマ 「核兵器も戦争もない世界を目指して」 参加者 21 名

話題提供：木戸季市さん (日本原水爆被害者団体協議会事務局長)

木戸さんは去る6月21日～23日までウィーンで行われた核兵器禁止条約第1回締約国会議に参加されました。8月にはニューヨークで行われる第10回NPT再検討会議に現地入りされることになっています。「皆さんに支援していただきこのように活動しているお陰で元気にしていただける」と話され、報告を始められました。

ウィーンで参加された会議・催しや懇談・要請活動などでは、特に若者との懇談が楽しかったと話されました。また中満泉国連事務次長(軍縮局上級代表)の精力的な活動に接し、その体力・知力に敬服・感動したとも話されました。

この会議に参加して、対話こそが問題解決唯一の道であることを確信し、同時に日本の憲法9条のすばらしさを改めて痛感。戦後、一人の命も奪ったり奪われたりしていないのはこの9条のお陰であり、これをもっと広く国民に認識してもらうことの必要を感じ、世界の規範にする必要もあると強調されました。

話の中で、条約採択の議長ホワイトさん(コスタリカ)と再会したことが喜びであったと話されました。その中で、コスタリカの「軍隊を持たない」精神を一人一人の国民のものにするために、学び合い・人権・周囲に平和な国だと思わせる努力・民主的な選挙制度などを重視するコスタリカの教育について紹介されたのが印象的でした。

現地でされた被爆証言の一部です。

——『あの日、あの時、原爆で命を奪われた人はどのように死を迎えたのでしょうか。自分がなぜ死ぬのか感じる暇もなく、一瞬に殺されました。看取られず、どこで死んだのか遺族にはわからず、遺骨もみつからない・・・全人生を消しさられた死。そんな死がそれまでにあったのでしょうか。非人道の極みです。

(中略) しかし、唯一の戦争被爆国である日本政府の態度には失望しています。圧倒的多数の国民の願いに反して、核兵器禁止条約に署名も批准もしていません。(*参加者聞いてびっくりしていたそうです。) 先の戦争を反省せず、国が起こした戦争によって国民が何等かの犠牲をしいられても、それはすべての国民が我慢しなければならないという「戦争犠牲受忍論」を政策の基本としているからです。これは、戦争と武力の威嚇・行使を永久に放棄した日本国憲法に反する政策です。憲法の施行から75年、日本国民は戦争によって一人の命も奪い、奪われていません。憲法が国民の命を守ったのです。

憲法を護り、被爆の実相を世界に伝え、核兵器禁止条約に署名批准し、核兵器の廃絶に主導的悪割を果たすことが、日本政府の責務です。』 ——

最後に、5歳で被爆した自分には4回転機があったと自分史を振り返られました。 ①1945年長崎で被爆 ②1952年自分を被爆者として認識(病気

など) ③1991年 岐朋会結成(岐阜被爆者の会) ④2017年被団協事務局長(被爆した人間として生きる)

木戸さんの話を聞いた後、参加者で意見を交換しました。

- 核で脅迫しているロシア。この現状をどう見る? 戦争が一部の者にとって大きな旨味になっているという仕組みをなんとか変えないといけない。今は、悪くなる一方。
- 私は1947年生まれ。平和憲法を信じていた。今、本当に危ない。以前講演をした青井美帆さんは、自衛隊が北朝鮮とぶつかるという想定で訓練していたという話をされた。本当に危ない。今できることをしないといけない。
⇒(木戸、以下同) 人類はジグザグの道をたどって進む。今回締約国会議に出て、核兵器を必ず禁止できるという確信を持った。この条約が力を持っているから保有国が反対している。今の国連は、戦争はダメだという国連憲章を持つ良い面と、5大国(第二次世界大戦の勝利国)を常任理事国にしたという負の側面を持つ。これからは国と国が結び合うのではなく人と人が結びあうのだと今回の会で確信した。
- 日本から行った若者についてもう少し説明を。
⇒ 皆英語が堪能だった。キチンと事実を見ようとしている。
- ウクライナは武力を武力で対抗している。西欧は止めようとしているのか? 武力は人間を守らない。
⇒ 被団協は被爆者がいなくなっていく現在、活動の曲がり角にあると思っている。被爆者だけではなく人間を守る運動にしていく必要を感じる。
- 「9条に価値があるのか?」という政治家や若い人がいる。私たちが若い人にどう伝えるのか考えて日々の生活の中で工夫する必要があるのではないか。8月6日・9日がどういう日か知らない若者が多い。
⇒ 人間の素晴らしさは想像力があること。事実を伝えることが大切である。昔はあったことを知っていたが、話さなかった。今は知識として知っていても自分事として自分の頭で考えない。
- 私の息子は重度の障害を持っている。私にとっては宝物。息子は今まで一度も戦争がなかったから生きてこられた。ウクライナの子ども達のことを考えると胸がはりさける。

最後に青木眞理さんのリードで、笠木透作詞「軟弱者」の歌を歌いました。

*今回は朝日新聞、岐阜新聞、赤旗各紙のほか、NHKの取材もあり、夕方の「まるっと岐阜」で、木戸さんの話を中心に放映されました。